研 究 結 果 報 告 書

所属　揚州大学外国語学院
役職　准教授
氏名　孫 楊

研究結果

日本の高齢者介護施設での言語コミュニケーションの現状把握と中国に対する示唆：

日本は中国より先に高齢化社会に入り、高齢者介護の分野において、国家レベル、自治体レベルの政策、制度、人材育成などが整備され、国民からの関心度も高い。一方、中国は近年国レベルから様々な政策や経済的な支援を行っているが、人材育成は思う通りに行かない面もある上、介護に従事する若者も非常に少ない。また、今日の中国の介護現場を見ると、介護士は被介護者との言語コミュニケーションは丁寧とは言えない。

そこで、本研究は、中日高齢者施設での介護言語コミュニケーションの実態に焦点を当て、特に介護士と入居者の間の「食事の場面」「薬の投与」「娯楽」「体調不良」「家族の面会」などの場面における言葉のやりとりに注目し、介護士へのアンケート、インタビューと業務日誌などの実証調査を行った。調査対象は、中国は長三角地域(長江三角地域の上海市、江蘇省、浙江省、安徽省)の 8 つの高齢者施設で働く介護者(20 名)で、日本は山梨、京都、厚木、長野、東京などの 6 つの施設で働く介護士（10 名）であった。また、中日の看護学校の学生を各 5 名ずつも対象とした。調査期間は、2021 年 11 月～2022 年 8 月、2023 年 7 月～8 月、2023 年 10 月であった。

調査結果は、以下の通りである。

① 中日双方の介護士は皆責任感を持ち、高齢者との言葉のやりとりを通じて、介護の仕事を完成していた。しかし、両者共に子供向けの用語を用いられていたような特徴が見られた。

② 会話の全体を見ると、中日の介護士はいずれも 2 回以上の言葉のやり取りを使って会話を完成していたが、相対的に中国側は日本側より会話が長かった。具体的に、中国側の介護士の話に言及した動作は殆ど高齢者に何かの動作の実施を要求する表現であり、さらに、直接要求が多く使われていた。一方、日本側の介護士は一般的に理由を述べることによって、間接的に高齢者に働作行為を要求していた。また、勧めの「ましょうか／ね」なども多用していた。

③ 中国側の介護士は「親族呼称語」を多用し、日本側の介護職員は「～さん」を多用していた。両者とも高齢者と良好な関係を築くためであった。

④ 日本側の介護士は「すみません」「ありがとう」などを用い、間接的に高齢者にある行動を促したり、いらいらした高齢者の気持ちを和らげたり、励ましをする傾向が見られたが、中国側の介護士にはこのような傾向は見られなかった。

⑤ 中国側の介護士は高齢者やその親族と「冗談」を使って高齢者の不安、抵抗、悲しみなどの感情を和らげたりする方法が見られたが、日本側には見られなかった。

以上のように、全体的に日本側の介護士は中国側より高齢者の気持ちを十分に配慮するため、丁寧な言語サービスを提供していることが分かった

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1.「中国における高齢者施設のマニュアル調査」，孫楊，『東アジア言語文化学会第三回大会』，2022/8/6～7，オンライン

2. “中日养老机构介护话语对比研究”(「中日高齢者施設における介護言語の比較研究」)，孫楊，『中国日语教学研究会江苏分会年会(中国日本語教育研究会江蘇省分会年会』，2022/12/3，南京信息工程大学(オンライン))

3.「中日の高齢者施設内での介護言語サービスについての一考察」，孫楊，『東アジア言語文化学会第四回大会』，2023/2/18～19，オンライン

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

1. “长三角地区民营养老机构语言服务调查研究”(「長江三角地域における私立高齢者施設での言語サービスに関する調査」)，孫楊・何山華，《昆明学院学报》，2023 年第 2 号，pp.27-36(査読あり)

2.「日本の介護政策と介護産業発展は中国に与える示唆」，孫楊，《东北亚外语研究》（査読あり、大連外国語大学）に投稿中。

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）